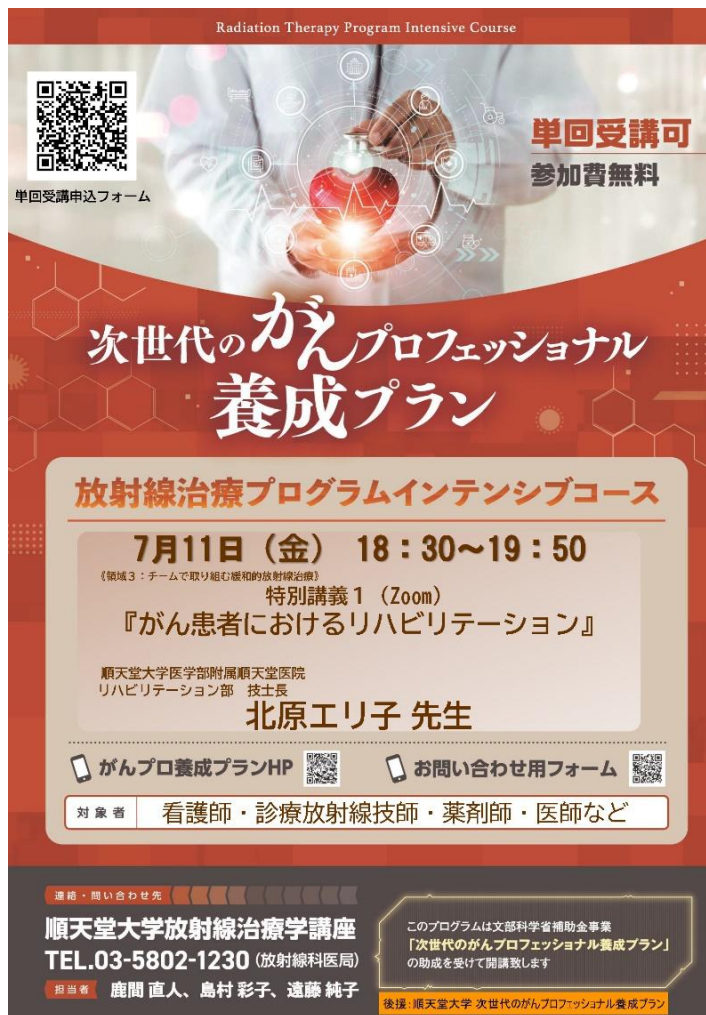


地域に定着する放射線治療医養成 WG

領域 3 チームで取り組む緩和的放射線治療「特別講義 1」を開催しました

地域に定着する放射線治療医養成 WG が開講する、緩和的放射線治療・密封小線源治療・高精度放射線治療の質の向上と普及を担う人材養成コース
領域 3「チームで取り組む緩和的放射線治療」において、「特別講義 1」を開催しました。



Radiation Therapy Program Intensive Course

単回受講可
参加費無料

単回受講申込フォーム

次世代の**がん**プロフェッショナル
養成プラン

放射線治療プログラムインテンシブコース

7月11日（金） 18：30～19：50
《領域 3：チームで取り組む緩和的放射線治療》
特別講義 1（Zoom）
『がん患者におけるリハビリテーション』

順天堂大学医学部附属順天堂医院
リハビリテーション部 技士長
北原エリ子 先生

がんプロ養成プランHP お問い合わせ用フォーム

対象者 看護師・診療放射線技師・薬剤師・医師など

連絡・問い合わせ先

順天堂大学放射線治療学講座
TEL.03-5802-1230（放射線科医局）
担当者 鹿間 直人、島村 彩子、遠藤 純子

このプログラムは文部科学省補助金事業
「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」
の助成を受けて開講致します

後援：順天堂大学 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン

特別講義 1

7月11日（金）18：30～19：50（Zoom 開催）

テーマ「がん患者におけるリハビリテーション」

講師：北原 エリ子先生（順天堂大学医学部附属順天堂医院）

座長：鹿間 直人先生（順天堂大学医学部附属順天堂医院）

要旨：がん患者に対するリハビリテーションは、がんそのものの症状に対するリハビリテーションと、がん治療の後遺症などに対するリハビリテーションに大別され、いずれも保険診療として行われています。リハビリテーションを担当する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などが、どのような点に配慮し、どのようなゴールを設定して、日々のリハビリテーションを実施しているのかについて、経験事例を交えながら解説いただきました。放射線治療や薬物療法により症状緩和が得られることで、より効果的なリハビリテーションが実施できるというメッセージもいただきました。参加者は 23 名でした。



地域に定着する放射線治療医養成 WG

領域 3 チームで取り組む緩和的放射線治療「演習 1」を開催しました

地域に定着する放射線治療医養成 WG が開講する、緩和的放射線治療・密封小線源治療・高精度放射線治療の質の向上と普及を担う人材養成コース
領域 3「チームで取り組む緩和的放射線治療」において、「演習 1」を開催しました。



Radiation Therapy Program Intensive Course

QRコード
単回受講申込フォーム

**単回受講可
参加費無料**

**次世代のがんプロフェッショナル
養成プラン**

放射線治療プログラム интенシブコース

9月27日（土） 13:00～16:00 (Zoom)

《領域 3：チームで取り組む緩和的放射線治療》

演習 1『放射線粘膜炎に対する多面的アプローチ』

① ケース紹介 塚本友紀子先生（順天堂医院）
② 看護師の視点から（粘膜炎に対するケア）大谷志津子先生（横浜市立市民病院）
③ 薬剤師の視点から（粘膜炎に対する薬物療法）永吉ひとみ先生（順天堂医院）
④ 栄養士の視点から（粘膜炎に対する食事療法）大脇真有先生（順天堂医院）
⑤ 歯科の視点から（口腔ケアのやり方）山村佳子先生・森本夢菜先生（順天堂練馬病院）
⑥ 臨床心理士の視点から（辛い副作用と向き合うメンタル）高橋啓示先生（順天堂医院）
⑦ 医師の視点から（治療計画における配慮など）岡野奈緒子先生（順天堂練馬病院）

がんプロ養成プランHP お問い合わせ用フォーム

対象者 看護師・診療放射線技師・薬剤師・医師など

連絡・問い合わせ先
順天堂大学放射線治療学講座
TEL.03-5802-1230（放射線科医局）
担当者 鹿間 直人、島村 彰子、遠藤 純子

このプログラムは文部科学省補助金事業
「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」
の助成を受けて開講致します
後援 順天堂大学 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン

演習 1

9月27日（土）13:00～16:00（Zoom 開催）

テーマ「放射線粘膜炎に対する多面的アプローチ」

講師：

- 1) ケース紹介：塚本 友紀子先生（順天堂医院）
- 2) 看護師の視点から（粘膜炎に対するケア）：大谷 志津子先生（横浜市立市民病院）
- 3) 薬剤師の視点から（粘膜炎に対する薬物療法）：永吉 ひとみ先生（順天堂医院）
- 4) 栄養士の視点から（粘膜炎に対する食事療法）：大脇 真有先生（順天堂医院）
- 5) 歯科の視点から（口腔ケアのやり方）：山村佳子先生、森本夢菜先生（順天堂練馬病院）
- 6) 臨床心理士の視点から（辛い副作用と向き合うメンタル）：高橋啓示先生（順天堂医院）
- 7) 医師の視点から（治療計画における配慮など）：岡野奈緒子先生（順天堂練馬病院）

要旨：放射線粘膜炎は頭頸部治療患者さんを中心に見られる有害事象であり、全身状態の悪化や副作用の悪化、治療効果の低減が起こらないようにするため、粘膜炎を起こさないように患者・医療者で協力してケアにあたる必要があります。現在もさまざまな職種が専門性を活かして関わることで、治療効果を高め、有害事象を軽減し、患者さんが治療を完遂するサポートを行なっています。今回は、多職種の専門性を活かした粘膜炎患者への関わり方、解釈、提案などを共有し、知識を深めました。ディスカッションでは医療者間でも情報共有し連携しながら関わっていくことの重要性が議論されました。また、具体的な提案などについても提示され、実臨床でも取り入れやすい情報提供がなされました。参加者は42名で、終了時のアンケートでも実臨床で取り入れられる内容がとて多かったとの感想が多く寄せられました。